

# 家畜衛生週報

ANIMAL HYGIENE WEEKLY

No.3910 農林水産省消費・安全局 畜水産安全管理課、動物衛生課 2026. 7. 6

- ・スペインからの家きん肉等の輸入一時停止措置の解除について…………… 201
- ・第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（徳島県）…………… 202
- ・愛玩動物獣医師向けのリーフレット公開のお知らせ…………… 206
- ・令和8年度における愛玩動物看護師国家試験に係るスケジュールのお知らせ…………… 207

## ☆スペインからの家きん肉等の輸入一時停止措置の解除について

（令和8年6月19日付けプレスリリース）

農林水産省は、今般、スペインにおける鳥インフルエンザの清浄性を確認したことから、本日、スペインからの家きん肉等の輸入一時停止措置を解除しました。

### 1. 経緯

スペインの家きん飼養施設において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたことから、令和7年7月以降、同国からの家きん肉等について輸入を一時停止していました。

（参考）生きた家きんについては、二国間の輸入条件が設定されておらず、従前より輸入できません。

### 2. 対応

今般、スペイン家畜衛生当局から我が国に提供された鳥インフルエンザの防疫措置等の情報により、同国の家きんにおける同病の清浄性を確認しました。このため、本日付で当該輸入一時停止措置（※）を解除しました。

※発生国又は地域から生きた家きん、家きん肉等、家きん卵等の輸入を停止するのは、我が国で飼養されている生きた家きんがウイルスに感染することを防止するためであり、食品衛生のためではありません。

（参考）スペインからの家きん肉等の輸入実績

|           | 2023年       | 2024年       | 2025年       |
|-----------|-------------|-------------|-------------|
| 家きん肉（トン）  | 35          | 44          | 77          |
| （日本の総輸入量） | (1,079,290) | (1,159,638) | (1,139,574) |
| 家きんの卵（トン） | 10          | -           | -           |
| （日本の総輸入量） | (40,510)    | (24,983)    | (34,076)    |

出典：財務省「貿易統計」

これまでの家きん肉等の輸入一時停止措置の状況等については、次のページより確認いただけます。

動物検疫所：<https://www.maff.go.jp/aqs/topix/im/hpai.html>

## ☆第66回全国家畜保健衛生業績発表会演題（徳島県）

*Enterococcus cecorum* の週齢ごとの病態

徳島県徳島家畜保健衛生所

横山彩子、山本亮平

### 1. はじめに

*Enterococcus cecorum*（以下EC）は、成鶏の腸内細菌叢を構成する常在菌の1つであり、健康な動物の腸内容からも分離される。一方で、肉用鶏に心膜炎、脊椎炎、脚弱などを引き起こし、農場へ経済的損失を与える病原性株も存在する。近年国内でも本菌による肉用鶏における疾病の発生報告が増加しているが、その発生機序や感染経路にはいまだ不明な点が多い。今回、管内の肉用鶏農場において、EC感染症が発生したため、その概要について報告する。

### 2. 発生概要

令和6年7月、管内で4鶏舎、約40,000羽を飼養する肉用鶏農場の1鶏舎（以下、発生鶏舎）において、両脚を前方へ投げ出し座る個体（図1）の多発が認められた。37日齢の生鶏2羽および死鶏4羽（計6羽）について病性鑑定を実施したところ、全検体において第六胸椎付近に膿瘍の形成が認められ（図2）、患部よりECが分離されたことから、ECによる脊椎膿瘍が脊髄を圧迫し脚弱を呈したものと診断した。

発生鶏舎の入雛羽数は、7,210羽であったが、3週齢で脚弱個体を確認後、死亡羽数が増加した。本



図1 両脚を前方に投げ出し座る起立不能

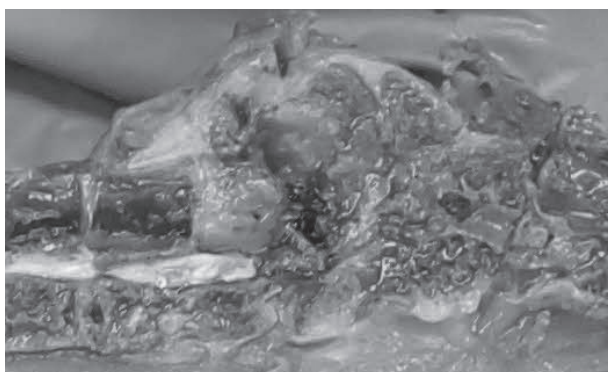


図2 第六胸椎付近の正中矢状断面

農場では、抗菌剤を使用しない飼養管理を行っていたため投薬は実施されず、出荷時には6,580羽（出荷率91.3%）まで減少した。令和5年の平均出荷率が99.6%であったことから、農場への経済的損失は甚大であった。

### 3. 調査目的

本農場では抗菌剤を使用しない飼養管理を行っているため、対策として出荷後に鶏舎内の洗浄・消毒の徹底を指導した。具体的にはカチオン系、アルデヒド系、オルソ剤などの消毒薬を使用し、衛生管理を強化した。本調査は、対策実施後の次期ロットにおいて週齢ごとの病性鑑定を実施し、細菌の分離状況から、消毒効果を検証することを目的とした。また、ECが検体から分離された場合には、病性鑑定を継続することで、週齢に伴う脊椎膿瘍や心膜炎などの病態推移を明らかにすることとした。

#### 4. 検査方法

##### 1) 供試材料

初発事例が認められた発生鶏舎において、9月中旬に入雛したロットを調査対象とした。2～6週齢まで毎週、淘汰予定鶏を3羽ずつ選定し、計15羽を供試した。

##### 2) 検査項目および方法

検査項目は、生体所見、病理学的検査、細菌学的検査およびウイルス学的検査とした。【病理学的検査】生体観察を行った後、病理解剖学的検査を常法に従い実施した。また、脊椎等の病変部については10%ホルマリン溶液で固定後、病理組織学的検査を実施し、膿瘍形成の有無を確認した。【細菌学的検査】全身の主要臓器について常法により分離培養を行った。また、各週齢1検体の脊椎断面および全検体の腸内容については、6.5%NaClトリプトソーヤブイヨンを用いて、37℃で24時間増菌培養した後、血液寒天培地に塗布し、さらに37℃で24時間培養した。分離菌の同定には、コンベンショナルPCR法による遺伝子検査(cPCR)、または生化学的性状による簡易同定キットを用いた。【ウイルス学的検査】肝臓の生材料を用いたFAV遺伝子検査、および血清を用いたIBDV抗体検査を実施した。

#### 5. 調査成績

1) 各週齢の病性鑑定結果は以下のとおりである。なお、細菌学的検査の結果については、他菌種が分離された例もあったが、本稿ではECの分離状況に限定して記載する。

##### ・2週齢

【病理学的検査】生体所見は、脚弱の発症は認められなかったが、ごく一部の個体において軽度の活力低下が確認された。病理解剖学的検査では、著変

は認められなかった。【細菌学的検査】3検体中2検体の主要臓器よりECが分離された。そのうち1検体では、検査した全ての主要臓器から分離された。【ウイルス学的検査】FAVおよびIBDVは全例陰性であった。

##### ・3週齢(図3)

【病理学的検査】生体所見では、3検体中1検体は活力良好であったが脚弱を呈していた。残る2検体では活力の低下が認められた。病理解剖学的検査では、脚弱を呈した検体では、第六胸椎付近に膿瘍(脊椎膿瘍)が認められたほか、心臓と心膜の軽度癒着が確認された。脚弱を呈していなかった検体では、脊椎膿瘍は認められなかったものの、心外膜炎および肝臓の褪色・脆弱化が確認された。病理組織学的検査では、脊椎膿瘍は、脚弱を発症した1検体のみで確認された。【細菌学的検査】全検体の主要

3週齢結果

※2～3週齢の死傷数 40/7,991羽

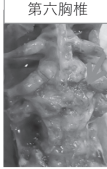
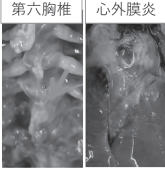
|             | 検体1                                                                                                                           | 検体2                                                                                                                                 | 検体3                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生体所見        | ・起立不能<br>・活力あり                                                                                                                | ・活力低下                                                                                                                               | ・活力低下                                                                                                                     |
| 解剖所見        | ・第六胸椎付近腫大<br>・心臓と心膜の軽度癒着<br>・大腿骨頭異常なし<br> | ・第六胸椎付近腫大なし<br>・心外膜炎<br>・肝臓褪色・脆弱化<br>・腎臓褪色<br> | ・第六胸椎付近腫大なし<br>・心外膜炎<br>・肝臓軽度脆弱化<br> |
| EC分離        | ・脳、肝臓、脾臓、腎臓                                                                                                                   | ・心臓、肺、肝臓、脾臓、腎臓                                                                                                                      | ・肺、肝臓、脾臓、腎臓                                                                                                               |
| FAV<br>IBDV | ・全て－                                                                                                                          | ・全て－                                                                                                                                | ・全て－                                                                                                                      |
| 脊椎膿瘍        | +                                                                                                                             | －                                                                                                                                   | －                                                                                                                         |

図3 3週齢の結果

臓器からECが分離された。【ウイルス学的検査】

FAVおよびIBDVは全検体陰性であった。

#### ・ 4 週齢 (図4)

【病理学的検査】生体所見では、全検体活力は良好であったが、全検体が脚弱を呈していた。病理解剖学的検査では、3検体の内2検体で脊椎膿瘍が確認された(残り1検体では腫大不明瞭)。また、両検体とも心外膜炎や心膜と心臓の癒着、および腎臓の軽度褪色が認められた。病理組織学的検査では、3検体中2検体で脊椎膿瘍が認められた。【細菌学的検査】3検体中1検体の脾臓からECが分離された。また、脊椎断面を作成し検査を実施した1検体において、同部位からもECが分離された。【ウイルス学的検査】FAVは全検体陰性であった。一方、IBDVは3検体中1検体のみ抗体陽性であった。

#### ・ 5～6 週齢

【病理学的検査】生体所見では、全検体活力は良好であったが、起立不能や起立困難等の脚弱を呈していた。病理解剖学的検査では、5週齢、6週齢ともに、3検体中2検体において脊椎膿瘍が確認された。また、膿瘍が認められなかった個体においても、心外膜炎や心膜癒着等の病変が確認されることがあった。病理組織学的検査では、5週齢、6週齢ともに3検体中2検体で脊椎膿瘍が認められた。【細菌学的検査】6検体中5検体の主要臓器からECが分離された。また、脊椎断面を作成し検査を実施した検体(各週齢1検体)において、両検体とも脊椎断面からもECが分離された。【ウイルス学的検査】FAVは両週齢ともに全検体陰性であった。IBDVは5週齢では3検体中1検体、6週齢では3検体中2検体で抗体陽性が確認された。最終的に出荷羽数は7,182羽(出荷率89.3%)まで減少した。

#### 4 週齢結果

※3～4週齢の死傷数 53/7,951羽

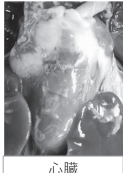
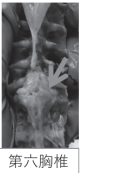
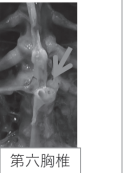
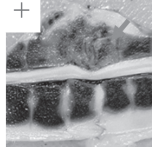
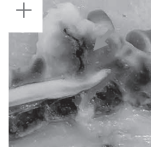
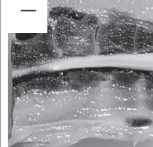
|             | 検体 1                                                                                                                                   | 検体 2                                                                                                                                      | 検体 3                                                                                                                                          |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生体所見        | ・起立不能<br>・活力あり                                                                                                                         | ・起立困難<br>・活力あり                                                                                                                            | ・起立不能<br>・活力あり                                                                                                                                |
| 解剖所見        | ・第六胸椎付近腫大<br>・心外膜炎<br>・腎臓軽度褪色<br>・大腿骨頭異常なし<br><br>心臓 | ・第六胸椎付近腫大<br>・心外膜炎<br>・腎臓軽度褪色<br>・大腿骨頭異常なし<br><br>第六胸椎 | ・第六胸椎付近腫大なし<br>・心膜と心臓の癒着<br>・腎臓褪色<br>・大腿骨頭異常なし<br><br>第六胸椎 |
| EC分離        | ・脾臓                                                                                                                                    | ・脊椎断面                                                                                                                                     | ・－                                                                                                                                            |
| FAV<br>IBDV | ・全て－                                                                                                                                   | ・全て－                                                                                                                                      | ・IBDV＋                                                                                                                                        |
| 脊椎膿瘍        | ＋<br>                                               | ＋<br>                                                 | －<br>                                                     |

図4 4 週齢の結果

#### 2) 遺伝子検査

初発事例、続発事例由来EC分離株の同一性を確認するために、Laurentieら(mSphere 2023.8:e0049522)による *Enterococcus cecorum* 病鶏由来株の識別に有用と考えられる6遺伝子に関する報告を参照し、大倉ら[日獣会誌(2025) 78:e1～e7]の方法に準拠し、これらの遺伝子を標的とした検査およびパルスフィールドゲル電気泳動法(PFGE)の実施を依頼した。

その結果、初発事例と続発事例の分離株は異なる遺伝子型を示した。また、続発事例の分離株内でも、複数の遺伝子型が確認された(図5、6)。

#### 6. 追加対策および経過

続発事例の発生を受け、次期ロット(令和6年12月入雛予定)の入雛を延期し、空舎期間の延長および発生鶏舎内の徹底消毒を実施した。具体的には、通常1.5ヶ月の空舎期間を3ヶ月まで延長した。ま

|    |               | EC<br>cPCR | プライマー |      |      |      |      |      | PFGE<br>Type   |
|----|---------------|------------|-------|------|------|------|------|------|----------------|
|    |               |            | 0573  | 1816 | 0586 | 2735 | 0757 | 1424 |                |
| 初発 | 臓器<br>2検体     | +          | +     | +    | +    | +    | +    | -    | A1(2)          |
| 続発 | 臓器<br>10/12検体 | +          | +     | +    | +    | +    | +    | -    | A2(7)<br>A3(3) |
|    | 臓器<br>2/12検体  | +          | -     | -    | -    | -    | +    | -    | B              |

図5 遺伝子検査結果

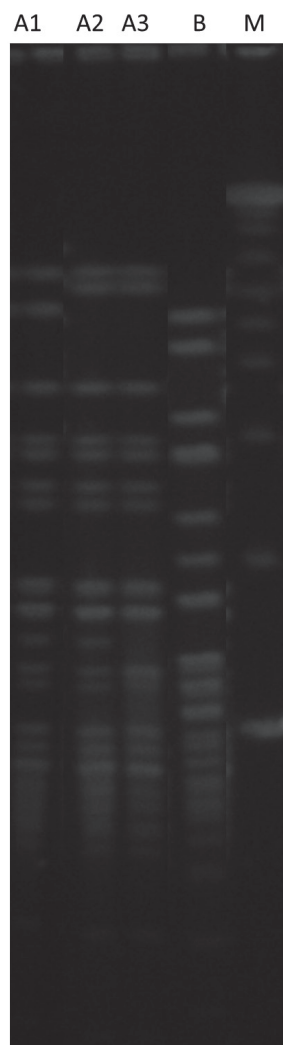


図6 分離された株で確認されPFGEパターン  
M: λ ラダーマーカー（プロメガ社）を使用

た、農場内の拭き取り検査を実施し、ECまたはエンテロコッカス属菌が検出された箇所については、カチオン系消毒薬を用いて再消毒を行った上で、入雛した。その結果、出荷率は初発事例で91.2%、続発事例で89.3%であったのに対し、追加対策実施後

のロットでは97.7%まで回復した。

## 7. 考察

本調査により、本農場で発生したEC感染症では、外見上の異常が少ない2週齢以下の段階で菌血症により菌が全身へ播種していると推測され、3週齢頃に敗血症による活力の低下が確認された。その後、耐過した個体においては、4週齢以降に脊椎膿瘍による脚弱が主徴となることが明らかとなった。また、確認された脊椎膿瘍の大きさは各週齢において同程度であり、週齢経過による顕著な変化は認められなかった。

EC分離株の遺伝子解析では、初発事例と続発事例で遺伝子型が異なっていたほか、続発事例の分離株においても検査時期により複数の遺伝子型が確認された。これらの結果から、初発事例の原因菌がそのまま農場内に残存して続発したわけではなく、新たな株が侵入した可能性、あるいは元来農場内に多様な遺伝子型のECが混在しており、今回検査した検体では分離されなかった株も含め、多様な株が複合的に感染に関与している可能性や、特定の株が初発事例後、農場内に残存し、環境で変異し、多様化した可能性が考えられる。感染経路の特定には至らなかったが、本菌による被害を防ぐためには、対策の実施期間について検証等を行う必要はあるが、一定期間以上の空舎期間の確保および消毒の徹底により、環境中の菌量を低減させることが重要であると考えられる。

## 8. 謝辞

本調査にあたり、PFGEによる遺伝子解析を実施いただいた国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門の大倉先生、ならびに検査データの収集にご協力いただいた関係各位に感謝いたします。

## ☆愛玩動物獣医師向けのリーフレット公開のお知らせ

動物分野の薬剤耐性菌の全国的なモニタリング (JVARM: [https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai\\_p3.html](https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3.html)) の結果に基づき、犬・猫から分離された細菌の薬剤耐性動向を整理したリーフレットを農林水産省ホームページ ([https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/240328\\_7.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/240328_7.html)) に掲載しました。第1弾は犬由来メチシリン耐性 *Staphylococcus pseudintermedius* (MRSP) です。日常診療における適切な抗菌薬選択や飼い主さんへの説明の際の参考資料として、ぜひご活用ください。

農林水産省による動物分野の薬剤耐性菌の全国的なモニタリング (JVARM) の結果より

犬由来メチシリン耐性 *Staphylococcus pseudintermedius* (MRSP)

日本の病気の犬由来コアグラージェ陽性ブドウ球菌はほとんどが *Staphylococcus pseudintermedius* (SP) で、そのうちMRSP\*が約半分を占めました。

\*ペニシリン系抗菌薬のメチシリンに耐性を示すものをMRSP、感受性を示すものをMSSPという。

☑SPは犬の常在菌ですが、皮膚や尿路感染症の原因菌となります。

- ・存在しても病気の原因かは正確な診断が必要。
- ・その他の疾患への抗菌薬の投与によっても影響を受ける(耐性になる)可能性。

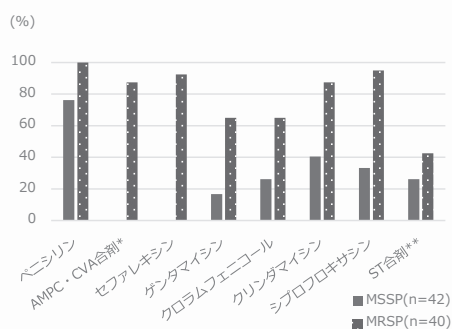
☑MRSPは多剤耐性菌です。

- ・フルオロキノロン系にも高率に耐性。
- ・有効な抗菌薬を選択・使用するためには感受性試験の実施が重要。

☑これ以上耐性化を進めないため、抗菌薬以外の治療法を検討しましょう。

- ・皮膚や耳では洗浄や消毒を選択肢に。
- ・臨床症状がない細菌尿では、治療しないことを選択肢に。

図1：病気の犬由来SPのMRSP/MSSP別耐性率 (2024)

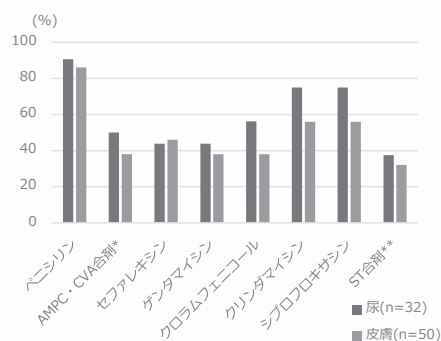


AMPC/CVA合剤\*：アモキシシリン・クラバン酸合剤  
ST合剤\*\*：スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤

- ・MRSPの方がMSSPより多くの薬剤に対する耐性率が高く、耐性のパターンは異なる。

→治療に際しては感受性試験が非常に重要。

図2：病気の犬由来SPの採材部位 (尿/皮膚) 別耐性率 (2024)



AMPC/CVA合剤\*：アモキシシリン・クラバン酸合剤  
ST合剤\*\*：スルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤

- ・皮膚由来SPも尿由来SPも多くの薬剤に高い耐性率を示す。

→抗菌薬以外の治療も検討する必要。

愛玩動物の慎重使用  
の手引きはこちら↓



抗菌薬一覧はこちら  
(2023年更新) ↓



お問い合わせ〇

動物医薬品検査所 動物分野AMRセンター  
mail: [nval\\_amr@maff.go.jp](mailto:nval_amr@maff.go.jp)



農林水産省

## ☆令和8年度における愛玩動物看護師国家試験に係るスケジュールのお知らせ

○第5回愛玩動物看護師国家試験：

令和9年2月14日（日）

○第5回予備試験：令和8年10月4日（日）

第6回予備試験：令和9年2月14日（日）

（予備試験の実施は第6回が最後です。）

# 愛玩動物看護師 第5回 国家試験

◆受験ルート\*に応じて必要な「大臣指定講習会」及び「予備試験」は今年度が最終実施です。国家試験の受験には、各受験ルートの要件を満たす必要があります。

◆第6回予備試験（最終予備試験）は、実務経験が見込みの方も対象となります。

※受験ルートは以下の3種類です。

- ① 通常ルート ▶ 学校等で必要な知識・技能を修得した方。
- ② 既卒者・在学者ルート ▶ 法施行日より前に修得した方・法施行日において修得中だった方（大臣指定講習会の修了が必要）。
- ③ 現任者ルート ▶ 愛玩動物看護師の業務（診療の補助を除く）を5年以上行った方（大臣指定講習会の修了及び予備試験の合格が必要）。

★受験ルートや受験手数料等の詳細については、下記お問い合わせ先をご確認ください。

## 第5回 国家試験

令和9年（2027年）2月14日（日）

申込期間：令和8年11月4日（水）13:00～同年11月19日（木）23:59

合格発表：令和9年3月12日（金）13:00

### 受験資格

学校等で必要な知識・技能を修得した者（令和9年3月1日までに修得する見込みの者を含む。法施行日より前に修得した者・法施行日において修得中だった者は大臣指定講習会の修了が必要）、予備試験合格者等

## 第5回 予備試験

令和8年（2026年）10月4日（日）

申込期間：令和8年6月30日（火）13:00～同年7月23日（木）23:59

合格発表：令和8年10月26日（月）13:00

### 受験資格

実務経験が5年以上の者であって大臣指定講習会を修了した者

## 第6回 予備試験

※最終予備試験

令和9年（2027年）2月14日（日）

申込期間：令和8年11月4日（水）13:00～同年11月19日（木）23:59

合格発表：令和9年6月25日（金）13:00

### 受験資格

実務経験が5年以上の者（令和9年4月30日までに5年以上となる見込みの者を含む）であって大臣指定講習会を修了した者

■試験地 全国7か所（北海道／宮城県／東京都／愛知県／大阪府／広島県／福岡県）

### 大臣指定講習会（最終開講）

〈令和8年度講習会実施主体（指定順）〉

一般社団法人 日本愛玩動物看護師会

<https://jvna-online.com/>

★申込期間

現任者 ▶ 令和8年4月1日（水）～同年10月23日（金）21:00

既卒者・在学者 ▶ 令和8年4月1日（水）～令和9年1月8日（金）21:00



一般財団法人 動物看護師統一認定機構

<https://www.ccrvn.jp/aigan.koushukai.top.html>

★申込期間

現任者 ▶ 令和8年4月13日（月）～同年10月19日（月）23:59

既卒者・在学者 ▶ 令和8年4月13日（月）～令和9年4月19日（月）23:59



### お問い合わせ

試験について

指定試験機関

一般財団法人 動物看護師統一認定機構

試験専用  
コールセンター

TEL:03-6808-9818



制度について

農林水産省

消費・安全局畜産安全管理課小動物獣医療班  
TEL:03-3502-8111（代表）



環境省

自然環境局総務課動物愛護管理室

0120-323-750（コールセンター）



MAFF 農林水産省



環境省  
Ministry of the Environment



試験日程の詳細



試験案内のポスター

---

通信

令和4年5月に施行された愛玩動物看護師法により国家資格としての愛玩動物看護師がスタートしました。犬猫等の愛玩動物はかけがえない家族の一員となっており、愛玩動物看護師に求められる専門性は獣医療補助に留まらず、適切な飼養管理、しつけ、動物福祉等の様々な分野に及んでいます。このような状況も踏まえ、本制度を所管する農林水産省と環境省では「新たな国家資格としての愛玩動物看護師のあり方」に関する検討を進めており、4月には獣医療における中間とりまとめ（第2次）を公表したところです。飼い主の求める獣医療の内容はますます多様化・高度化する中、獣医師、飼養者、獣医療スタッフ等と連携を図りながら診療の補助、看護、日頃からの飼養管理や健康管理等に対応する必要性があり、資格の信頼性の確保、専門的な知見やスキルの習得・向上のための訓練・研

修等についても議論を詰めていく必要があります。検討のとりまとめに向けて本年度はさらに議論を深め、本制度の充実を図ってまいりたいと思います。令和8年度における愛玩動物看護師国家試験の日程は令和9年2月14日（日）です。来年5月で法施行から5年となるため、長らく愛玩動物獣医療分野に従事されてきた現任者に国家試験資格を付与するための予備試験は本年10月と令和9年2月の2回で終了となりますのでご注意ください。

毎週月曜日発行

## 家畜衛生週報

編集・発行：農林水産省消費・安全局  
畜産安全管理課、動物衛生課

☎03(3502)8111 内線 4581

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1